

2025年12月1日

中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会
総則・評価特別部会
主査 貞広 斎子 殿

日本イエナプラン教育協会
代表理事 濱 大輔

次期学習指導要領改訂に向けた日本イエナプラン教育協会からの要望

イエナプラン教育は、ドイツで始まりオランダで広がった、子ども一人ひとりを尊重しながら自律と共生を学ぶ教育です。日本でも近年、(試行) 実践が始まっていますが、その目指すところは令和6年12月25日の文科大臣から中央教育審議会への諮問文の内容とほぼ一致しており、これから日本の学校で求められる教育のあり方、すなわち、子どもたちの主体性と対話を重視し、子どもたちの多様な個性を生かして最大限に伸ばすために、柔軟な指導や子どもたち同士の相互作用を活用して高質で深い学びを行い、共生社会を実現しようとするものです。この観点から、イエナプランをはじめ、同様の方向を目指す学校が、より効果的な教育活動を実現できるよう、以下の内容を、中央教育審議会答申の中に入れてくださるよう要望します。

なお、これまでに4回、教育課程企画特別部会に要望書を提出しました。→



要望1 多様な児童生徒の学びを保障する観点から、各児童生徒の実態に見合った授業が各学校で行われるよう、柔軟な教育課程編成ができる仕組みを答申してください

現在の学校には多様な児童生徒が存在しています。その一人ひとりを大切にし、イエナプラン教育のように子どもを真ん中に据えた教育を実践する際、学び（人生）の舵取りを児童生徒自身が行う授業観・教育観への転換が必要です。そのためには学習内容の学年区分をできる限りなくし、各自が自分に見合った学習内容・方法を選択し、学習進度を調整できるようにすることが必要です。9月25日の論点整理でも「児童生徒の実態に応じて必要があると判断する場合は、学年区分に囚われず柔軟に教育課程の編成・実施が可能であることを明確化すべき」(p. 33) と記されています。この点を確実に学習指導要領の総則に明記することを答申してください。

要望2 児童生徒が授業で達成感を味わい、次の学びに向かう活力を生み出すため、学習評価については児童生徒の個人内評価の重要性も強調した答申をしてください

児童生徒一人ひとりを大切にし、その個性を伸ばすためには、子どもが出来た喜びやわかった喜びを得て達成感や自己肯定感を味わうことが大切です。そのためには他人との比較のみならず、自分の学びの進化や成長を子ども自らが感じることが出来る評価のあり方が求められます。そこで、児童生徒がいつでも戻って学び直したり、進んで学んだりすることができる環境を創るとともに、児童生徒の個人内評価を重視することを学習指導要領の総則に明記することを答申してください。

※日本イエナプラン教育協会は、日本におけるイエナプラン教育の発展・普及のために、市民の自発的な教育活動を支援、促進し、イエナプラン教育の実践をもとに、情報交換や研究を深めていく場をつくることを目的とする団体です(平成26年10月に一般社団法人設立)。<https://japanjenaplan.org/>



中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会
特別活動ワーキンググループ
主査 恒吉 優子 殿

日本イエナプラン教育協会
代表理事 濱 大輔



次期学習指導要領改訂に向けた日本イエナプラン教育協会からの要望

イエナプラン教育は、ドイツで始まりオランダで広がった、子ども一人ひとりを尊重しながら自律と共生を学ぶ教育です。日本でも近年、(試行) 実践が始まっていますが、その目指すところは令和6年12月25日の文科大臣から中央教育審議会への諮問文の内容とほぼ一致しており、これから日本の学校で求められる教育のあり方、すなわち、子どもたちの主体性と対話を重視し、子どもたちの多様な個性を生かして最大限に伸ばすために、柔軟な指導や子どもたち同士の相互作用を活用して高質で深い学びを行い、共生社会を実現しようとするものです。この観点から、イエナプランをはじめ、同様の方向を目指す学校が、より効果的な教育活動を実現できるよう、以下の内容を、中央教育審議会答申の中に入れてくださるよう要望します。

なお、これまでに4回、教育課程企画特別部会に要望書を提出しました。→



要望1 児童生徒の対話と民主的な合意形成を重視し、人間関係形成に資する特別活動になるよう答申してください

子どもを真ん中に据えた教育を実践するイエナプランの実践校では、対話を重視し、毎日朝と帰りにサークル（輪）になって対話をする時間を設けています。このことで児童生徒の心理的安全性と意見表明権を担保するとともに、人間関係形成にも役立てています。9月25日の論点整理では「学級活動について、学級内の多様性を前提に、共生社会の実現に向けた納得解を形成することの重要性をより明確に位置付けてはどうか」(p. 102)と記されています。このことを踏まえ、児童生徒が対話を通して民主的な合意形成をする機会を保障すべく、特別活動の学級活動における対話の機会を重視するよう答申してください。

要望2 児童生徒の自治的な活動を重視し、社会参画に係る資質能力を育む特別活動になるよう答申してください

特別活動では、児童生徒が主体的に学級や学校の生活をより良くするため、話し合って決めて実行することを通して社会参画の力を育成しています。9月25日の論点整理では、児童会・生徒会活動は「校則など学校のルールの設定をはじめとする学校運営に発達段階に応じて子供が関わる仕組みである」(p. 102)、学校行事は「子供たちが創造する活動である」(同)と記されています。このことを踏まえ、児童生徒の主体性や市民性（シティズンシップ）を育むべく、特別活動における自治的な活動を重視するよう答申してください。

※日本イエナプラン教育協会は、日本におけるイエナプラン教育の発展・普及のために、市民の自発的な教育活動を支援、促進し、イエナプラン教育の実践をもとに、情報交換や研究を深めていく場をつくることを目的とする団体です（平成26年10月に一般社団法人設立）。<https://japanjenaplan.org/>

